
七色の月

壱座右

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七色の月

【Nコード】

N0625B

【作者名】

壱座右

【あらすじ】

僕の顔色は月の表情。季節は過ぎ去って行くけれど、それでもただ君に逢いたくて。君を思うだけで切なくて。

僕は一人で月を見ていた。細く頼りない三日月を。永久の景色は僕の心模様。

君に出会えて良かったと。僕はそれだけを後悔せずに生きて行くとした。ただ切なくて、忘れられない思い出がぶり返す度、僕の頬を涙が伝う。月が水面を優美に流れるように、ただ僕の記憶を鮮明に照らし出すように、空に咲く一輪の黄褐色は僕を濡らす。

ただただ切なくて、君を思うだけで切なくて悲しくて。

楽しかったよ。確かに楽しかったよ。僕の記憶がそう告げる。僕が君を思う一秒一秒を、あなたはどうぞお過ごしですか？決して止まらぬ時の渦の中で、僕はそれを無駄にしていませんか？

暗闇に咲く花は群青色。

君に出会ってから僕は少し変わりましたか。君に何か変化はありましたか。あなたは楽しい時を過ごせましたか。僕といて楽しかったですか。僕の愛はあなたに届きましたか。

暗闇に咲く花は水白色。

愛していました。愛していました。あなたに出会ったその日から。ええ、愛していました。

暗闇に咲く花は橙色。

君は覚えているだろうか。共に泣き、共に笑い、共に駆け抜けたあの日々を。僕達が持つ様々なエネルギーをぶつけ合ってきたよね。水銀に輝く月を覚えているかい。見ながら君はこう呟いたね。生きるって何なの、死ぬのって何なのって。その時は何も言えなかったけど、今ならわかる。僕達があの場所あの時間を過ごした瞬間が答えだって。もしも君が忘れても、僕は永遠を誓うよ。たとえ冥府を彷徨おうとも。

暗闇に咲く花は赤褐色。

君に出会えて幸せでした。君と過ごした日々は幸せでした。僕は今でも幸せですか？君は今でも幸せでしょう。

君は僕と同じ月を見上げていますか？僕の希望が叶うのならば、僕の最後の言葉を聞いてくれるのならば。幸せって何？僕の願いを聞いておくれ。もう悲しませたりしないから。僕の傍にいて。満月のように僕を照らしてよ。

君の笑顔。君の仕草。君の言葉。夜空に煌く無数の星達のように、僕の心に咲く花びら。

暗闇に咲く花は紅蓮色。

僕の心は紅蓮色。

君の心は紅一点。

夜空に咲く桜。水面に下る紅葉。

僕は君との場所に立っているけど。思い出の場所に立っているけど。
君の姿は闇の中。もう帰らないよ、帰れないよ。君と再び唇を交わ
すまで、僕は闇に立ち向かう。そうだよ。

暗闇を照らす花は虹色の月。

(後書き)

はじめまして。初となるこの作品は非常に切なく仕上げてみました。さて、今回は月をモチーフにしたということ。月を見る人それぞれによって表情を変えたいと思います。それは人個々が持つ感性与繋がっている、わたしは思います。

闇に浮かぶ月は皆さんにはどう映っていますか？一度見上げてみてください。颯爽と輝く星空と共に。

あなたの空の月は何色に輝いていますか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0625b/>

七色の月

2011年1月13日14時32分発行